



## 「副鼻腔炎と 内視鏡下鼻内副鼻腔手術について」

副鼻腔は鼻腔（鼻の穴の奥）を取り囲む空洞です。眼の下、頬の奥にある上顎洞、両眼の間にある篩骨洞、蝶形の巣状に複数存在するので篩骨蜂葉とも呼ばれます。篩骨洞の後方にある蝶形骨洞、そして額の奥にある前頭洞という4種類の空洞からなります。それぞれ鼻腔に通じる穴があり、換気と排泄がなされています。

鼻腔、副鼻腔の炎症により、正常な換気と排泄が阻害され、副鼻腔内に膿やポリプが生じ、鼻漏や鼻閉、痛みなどの症状が生じた状態が副鼻腔炎です。短期間に症状が悪化する急性副鼻腔炎と、長期に渡って症状が続く慢性副鼻腔炎に大別され、細菌、真菌（カビ）、歯の炎症の波及、アレルギー性の炎症などがその原因となります。

治療は保存的治療（薬物治療や鼻内の処置など）と手術治療に分けられます。保存的治療で治らない場合や、炎症が強いつきに手術治療が適応となり、その中心が内視鏡下鼻内副鼻腔手術です。医療の現場では英語の略称であるESS（endoscopic sinus surgery）と呼ばれることも多い手術で、鼻の穴から内視鏡と手術器械を入れて行い、通常外側の切開は行いません。鼻腔、副鼻腔内のポリプなどの病的粘膜炎、薄い骨の隔壁を除去することで鼻腔と副鼻腔の換気口を広げ、生理的な治癒を促すことがその主な目的です。術後すぐに副鼻腔炎が完治するわけではなく、治癒を促すものなので、術後の保存的治療も大事であることも知っていただきたいと思います。しかし、保存的治療単独の場合に比べて、手術治療と保存的治療の組み合わせは非常に高い効果が得られ、多くの方が治癒、またはそれに近い状態に至ります。手術ですの合併症の危険性はゼロとまではいきませんが、近年の手術支援用器械の発達もあり、安全性、効果ともに高い手術を提供できるようになっていきます。

函館中央病院  
耳鼻咽喉科

赤澤 茂  
科長

### 〔略歴〕

平成15年、北海道大学医学部卒業。北海道大学病院、函館中央病院、市立釧路総合病院、北海道大学病院勤務を経て、平成23年より函館中央病院耳鼻咽喉科勤務。平成26年より耳鼻咽喉科科長に就任し現在に至る。日本耳鼻咽喉科学会認定専門医。



### 函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyu.com/>

診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、  
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全22科目  
受付時間 / 8:30~11:30・13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。  
休診日 / 日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)